

■ 2009年度 入試問題分析シート ■

北海道大学 文学部

前期日程

科目

世界史

総括

試験時間	90分	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
満点(配点)	150点	分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉
一昨年・昨年と同様に大問4題は変化無し。論述の形式は例年通り字数制限ではなく、行数指定である。1行指定も含めると、14題・30行であり、設問数は昨年より若干増えたが、行数はほぼ同じとなった。参考に2006年度も14題・計29行で今年度とほぼ同じである。3行論述が3題・4行論述と5行論述が1題含まれているが、昨年のような教科書を逸脱した内容はなく、受験生にとっては比較的楽に対応できたのではと推測する。

〈特記事項・トピックス〉

2007年度に出題されたヨーロッパ都市の地図問題などは出題されなかった。インド史・フランス史・中国史(明清)など地域を意識した問題にジャガイモの社会史といったテーマ的な問題が含まれていた。大問ごとに古代から現代までの幅広い出題がなされており、全体的なバランスはとれている。テーマとなったジャガイモの歴史は今年度、慶應義塾大学の商学部でも出題されていた。

〈合格への学習対策〉

論述の量に関して、設問数はともかく、計30行前後で落ち着きつつあるように思える。論述の質に関して、今年度は易化した。この傾向が来年度も続くかどうかはわからない。しかし、難問対策でよい時間をとられるよりも、標準的・基本的な論述を確実に得点できるような学習を心掛けるべきである。今年度は配分が少なかったアメリカ合衆国やラテンアメリカなどの近現代史の頻度は相変わらず高いので来年度は要注意である。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	分野・テーマ(表題)	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
1	記述・論述 (3行×1 5行×1)	インド史 (インダス文明～ガンディー)	短答式の記述問題は全て基礎的であり、一つもミスは許されない。問4のアフリカ東海岸におけるムスリム商人の影響や問5の西北インドのイスラーム勢力の動向などは、論述に慣れてさえいれば、詳細な知識がなくとも十分合格点はとれると思う。	標準
2	記述・論述 (2行×2 1行×2)	10～18世紀後半のフランス史	問2・問7・問8の論述は基本的且つ、頻出の問題であり、確実に得点すること。問4(ア)もフランス革命で学習すべき重要な内容である。ましてや問5にフロンドの乱が設問されている。	標準
3	記述・論述 (3行×1 2行×1 1行×4)	ジャガイモの世界史	インカ帝国、三圃制、ドイツ三十年戦争、アイルランド問題、キューバ危機と、多岐にわたる問題である。問1のインカ帝国の統治制度は受験生にとって盲点になりがち。論述はポイントを外さずに。	標準
4	記述・論述 (4行×1 3行×1)	明・清の社会経済史	空欄記述問題は基礎的レベル。問3のテーマは、宋代や明代については慣れていると思うが、清代ということで戸惑った受験生も多いことだろう。教科書をしっかり読むことが大切。問4の論述は書く量は多いが、内容は基本的なので要点を押さえて確実に得点しよう	標準

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。